

令和 1(2019)年さけます来遊状況(第 5 報:12/31 現在)

3 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
北海道区水産研究所 さけます生産技術部

- 12 月末時点での年齢別来遊数を推定すると、4 年魚（2015 年級）は全国・北海道及び本州において、1994 年以降で 1～2 番目に少なく、5 年魚（2014 年級）は 2～4 番目に少ない
- 3 年魚（2016 年級）は、全国・北海道及び本州で前年を上回り、日本海側では平年*1 よりも多い
- 北海道のサケの平均重量は 3.31kg で前年を上回り、主要河川に回帰したサケ 4 年魚の平均尾叉長も大型化し、ともに 2017 年に近い水準まで回復

*1: 平年とは、平成 6（1994）～平成 30（2018）年の平均値

・サケの年齢組成 (全国)

全国の主要な河川に回帰したサケの年齢査定をもとに、12 月末時点における年齢別来遊数を推定したところ、4 年魚（2015 年級）が全体の 46%を占めて最も多く、5 年魚（2014 年級）及び 3 年魚（2016 年級）がそれぞれ 36%、17%となっています。5 年魚は、前年同期の 190%と前年を大きく上回っていますが、4 年魚は前年同期の 38%と大きく減少しています。平年同期との比較では、それぞれ 35%と 29%となっており、5 年魚は 1994 年以降で 3 番目に少なく、4 年魚は最も少ない状況です。また、3 年魚は前年同期の 182%、平年同期の 96%となっています（図 1）。

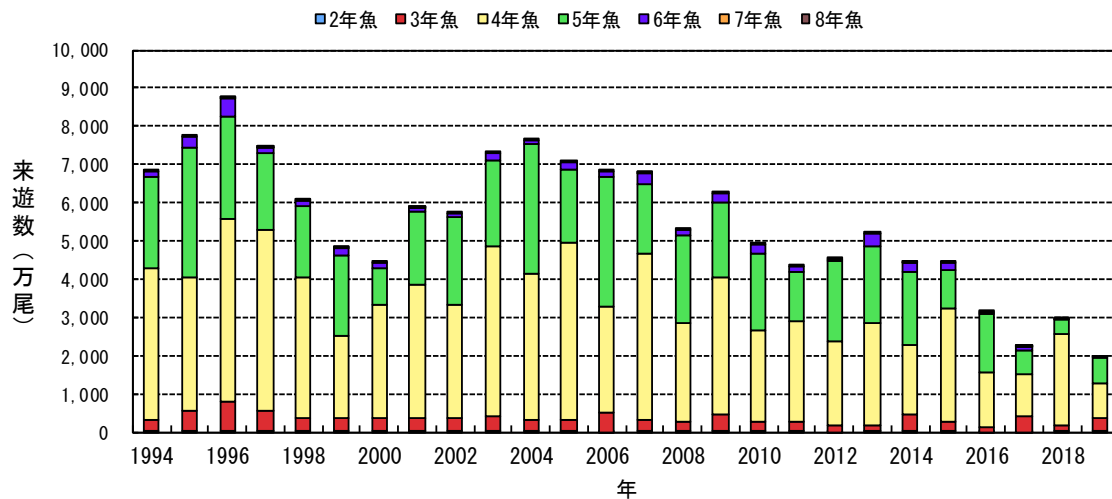


図 1. 12 月末時点のサケ年齢別来遊数（全国）.

(北海道)

4年魚(2015年級)が全体の49%を占めて最も多く、5年魚(2014年級)及び3年魚(2016年級)がそれぞれ34%、16%を占めています。5年魚は、前年同期の221%と前年を大きく上回っていますが、4年魚は前年同期の47%と大きく減少しています。平年同期との比較では、それぞれ38%と36%となっており、5年魚は1994年以降で3番目に少なく、4年魚は2番目に少ない状況です。また、3年魚は前年同期の168%、平年同期の125%となっており、前年および平年を上回っています(図2)。

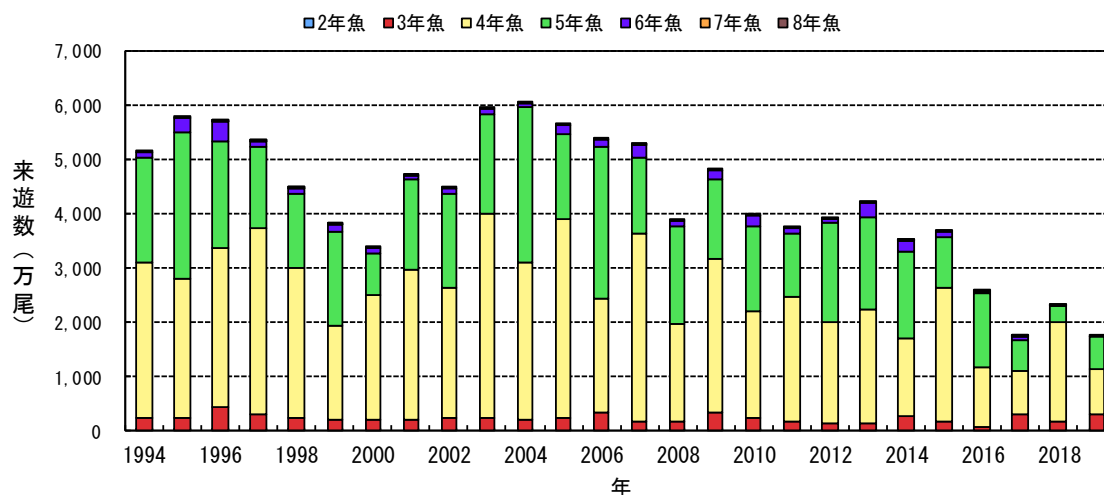


図2. 12月末時点のサケ年齢別来遊数(北海道).

年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年の5年魚である2014年級は5年魚までの来遊数(2~5年魚の来遊数)で比べた場合、1992年級以降の平均の66%の水準で、少ない方から5番目となっています。また4年魚である2015年級は4年魚までの来遊数(2~4年魚の来遊数)で比べた場合、1992年級以降の平均の39%の水準で、少ない方から2番目となっています(図3)。

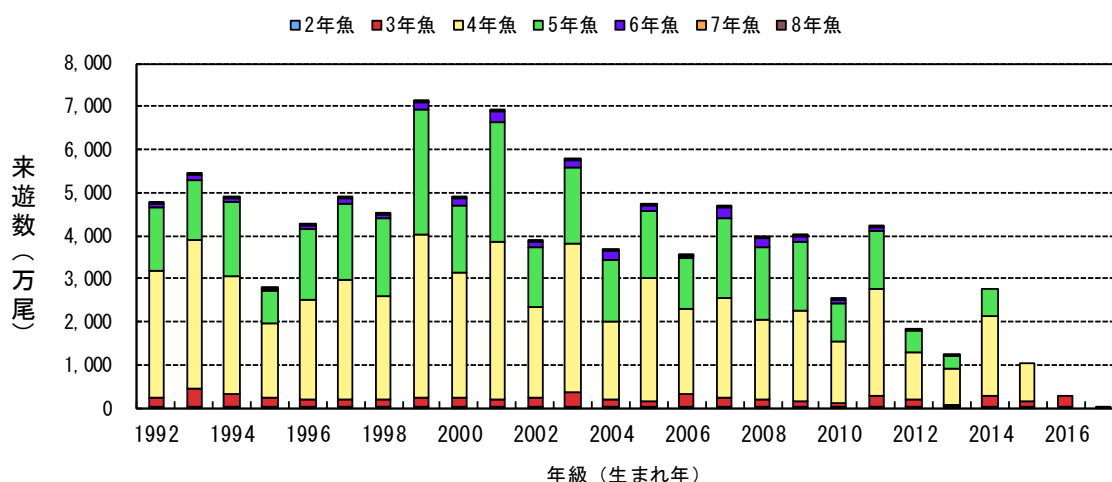


図3. 12月末時点のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(北海道).

地域別にみると、太平洋側（根室～えりも以西海区）では、5年魚の来遊数は前年同期の258%、平年同期の27%となっています。4年魚は前年同期の45%、平年同期の27%となっており、4年魚は1994年以降で2番目に少なく、5年魚は3番目に少なくなっています。また、3年魚は前年同期の125%、平年同期の82%となっています（図4）。

日本海側（オホーツク海区及び日本海区）では、5年魚の来遊数は前年同期の202%、平年同期の50%となっています。4年魚は前年同期の48%、平年同期の46%となっており、4年魚は1994年以降で最も少なく、5年魚は4番目に少なくなっています。また、3年魚は前年同期の205%、平年同期の172%となっています（図5）。

両地域とも5年魚は前年を上回っているものの、4年魚は前年を大きく下回っています。

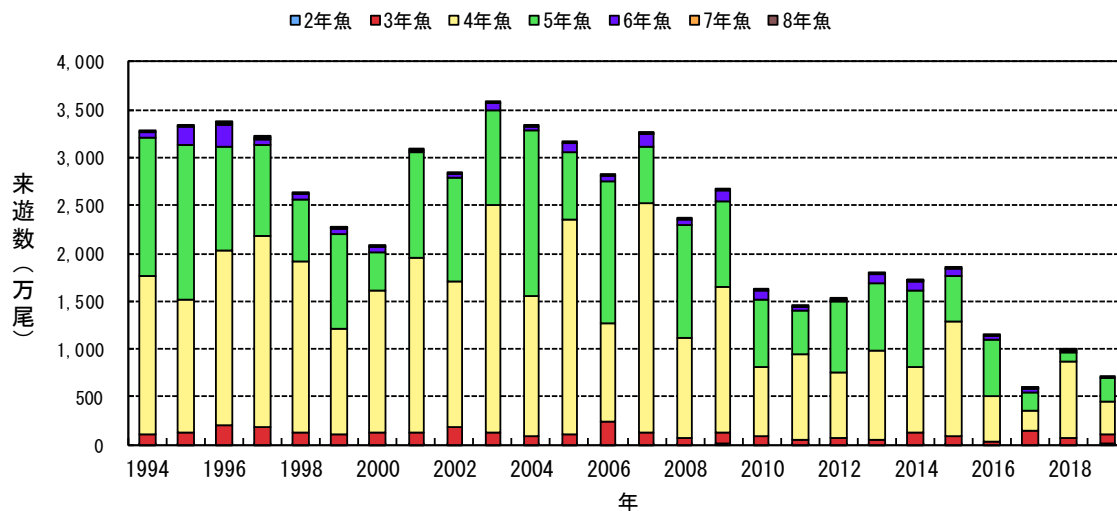


図4. 12月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

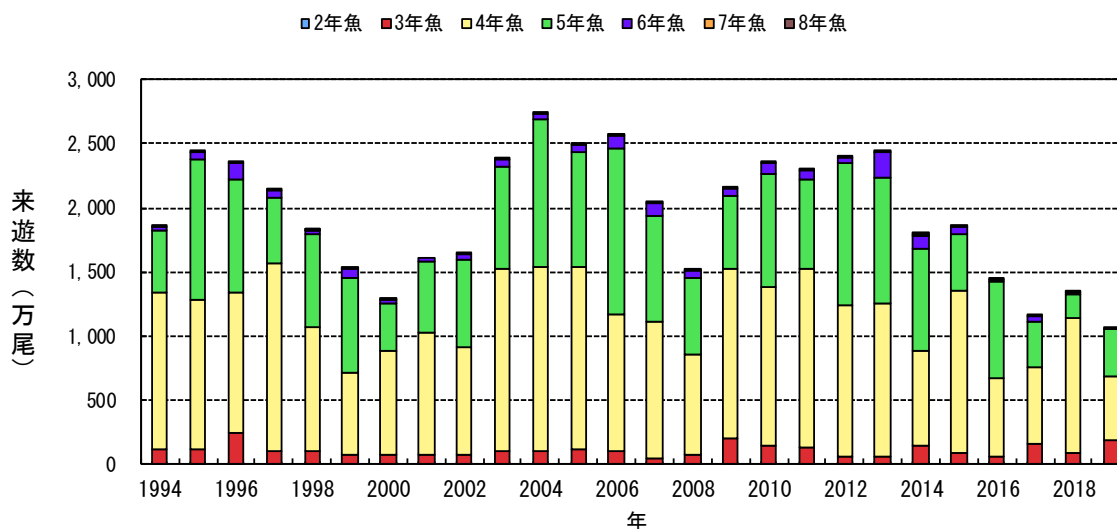


図5. 12月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

(本州)

本州太平洋側では、5年魚(2014年級)が全体の56%を占めて最も多く、次に3年魚(2016年級)が22%を占め、4年魚(2015年級)が20%と続いています。4年魚は前年同期の7%、平年同期の5%となっており、1994年以降では最も少なくなっています。5年魚は前年同期の107%、平年同期の25%となっており、1994年以降で2番目に少ない状況です。また、3年魚は前年同期の214%、平年同期の32%となっています(図6)。

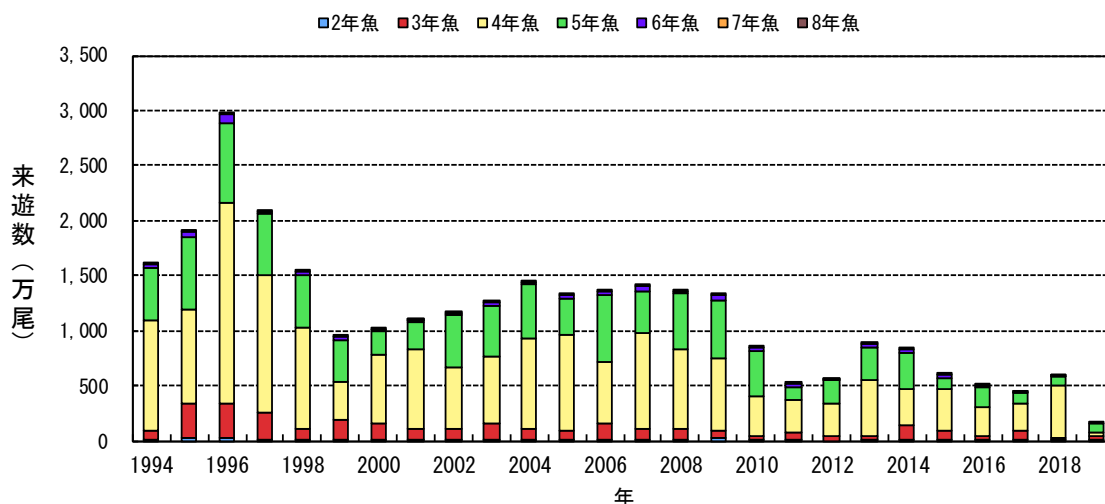


図6. 12月末時点のサケ年齢別来遊数(本州太平洋).

本州日本海側では、3年魚(2016年級)が全体の51%と最も多く、次に4年魚(2015年級)が23%を占め、5年魚(2014年級)が15%と続いています。3年魚は前年同期の676%、平年同期の167%と1994年以降で4番目に多く、4年魚は前年同期の24%、平年同期の22%と1994年以降で最も少なくなっています。また、5年魚は前年同期の64%、平年同期の45%と1994年以降で4番目に少なくなっています。(図7)。

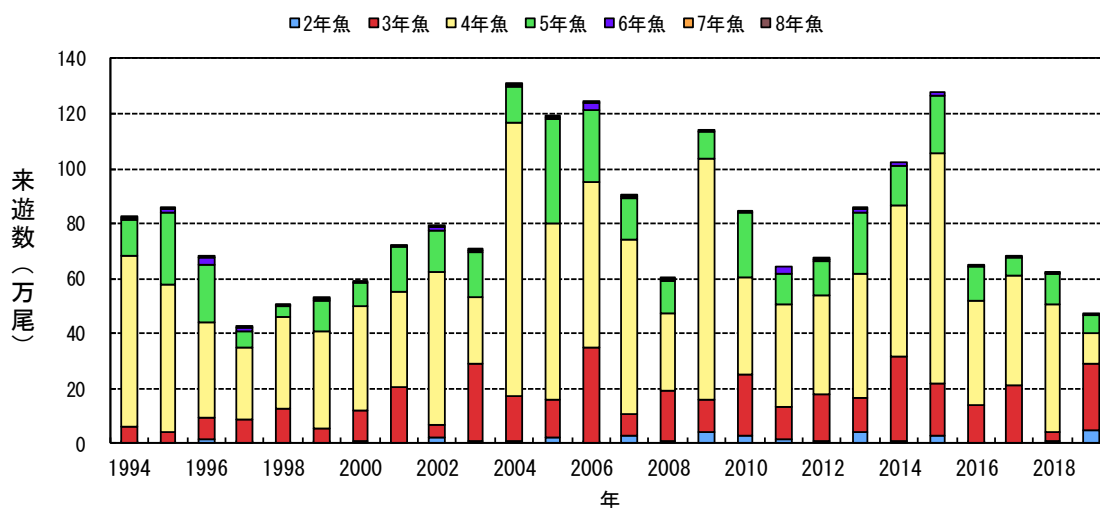


図7. 12月末時点のサケ年齢別来遊数(本州日本海).

・サケの体サイズ

北海道における12月末時点のサケ1尾当たりの平均重量（サケ漁獲数と漁獲重量から算出）は3.31kgであり、1989年以降で2番目に小さかった前年同期の109%に相当します（図8）。

北海道の主要河川に回帰したサケ4年魚の平均尾叉長は、前年に比べ1～4cm大きくなっており（図9）、平均重量・尾叉長ともに2017年に近い水準まで回復しました。

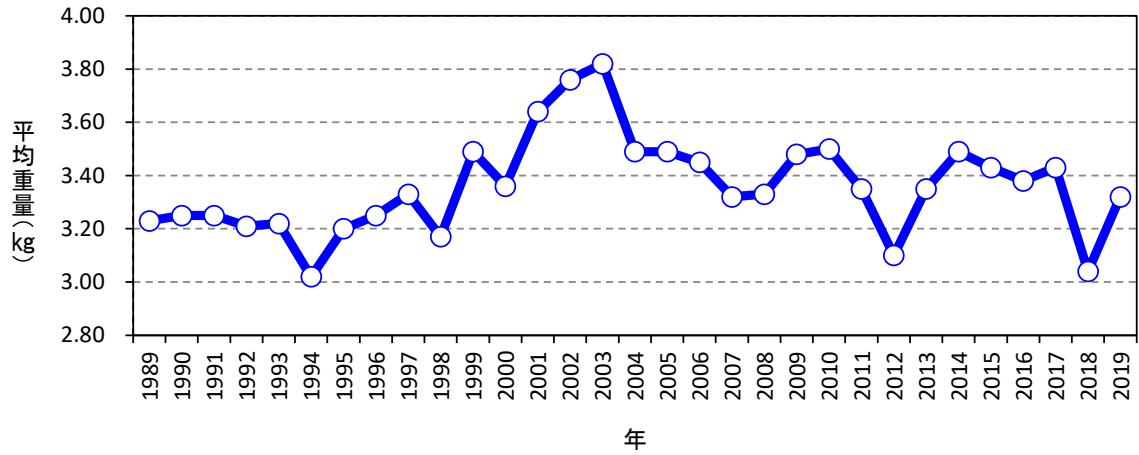


図8. 12月末時点のサケ平均重量（北海道）.

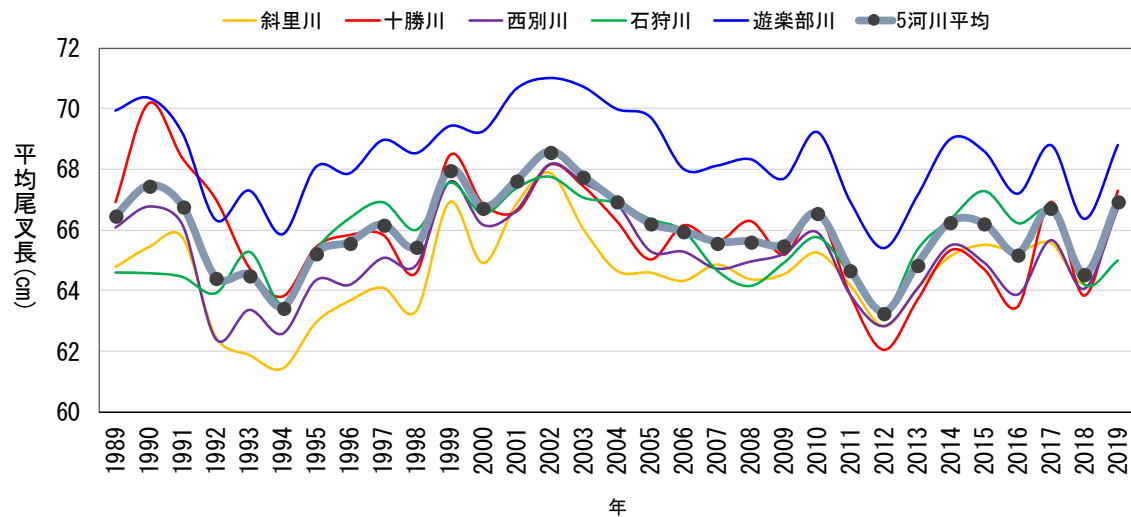


図9. 北海道の主要河川におけるサケ4年魚（雌雄込み）の平均尾叉長.